

アカバナ科 チョウジタテ属

ウスゲチョウジタテ (薄毛丁子蓼)

Ludwigia epilobioides Maxim. subsp. *greatrexii* (H.Hara) P.H.Raven



自生環境

水田、湿地 など

原産地

日本在来

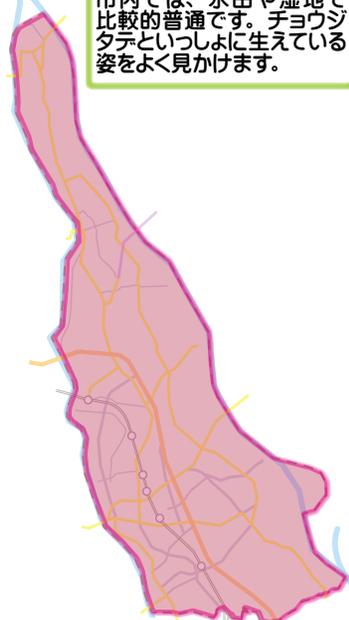
生育を脅かす要因



市内では数が多く、水田がこのまま維持されている限りは問題ありません。外来種との競争、湿地の埋め立て、過度の農薬散布などが、減少リスクとなります。

市内の分布状況

市内では、水田や湿地で比較的普通です。チョウジタテといっしょに生えている姿をよく見かけます。



特徴

- ☆ 水田やあぜなど、湿った場所に生える1年草です。多くの場合、亜種の関係にあるチョウジタテといっしょに生えています。チョウジタテは普通種で数も多く、ウスゲチョウジタテは稀と言われますが、市内ではどちらもたくさん生えています。
- ☆ 全体的にチョウジタテに比べると大型で、よく見るととても細かい産毛がたくさん生えています。チョウジタテは茎や果実の赤みが強く、寒くなると鮮やかに紅葉しますが、ウスゲチョウジタテの赤みは比較的弱く、気温の高い時期はふつつ緑色です。
- ☆ がくや花びらはチョウジタテよりも大きく目立ちます。花びらの枚数はふつつ5枚ですが、わりと変動します。がくの中心付近にある花托と呼ばれる部分に毛があります。花托は花びらが落ちた後に観察しやすくなります。

花びらの枚数は参考程度

チョウジタテとウスゲチョウジタテの見分けのポイントとして、図鑑によっては花びらやがくの枚数を挙げられています。チョウジタテでは4、ウスゲチョウジタテでは5です。確かにそういう傾向が無きにしも非ずですが、この仲間は花びらやがくの枚数が同じ株の中でもかなり変動します。そのためあまり見分けの決定打にはならず、参考程度にしたほうが良いでしょう。



花びらはふつつ5枚。がくよりも大きく目立つ

茎や葉に産毛が生えることが多い

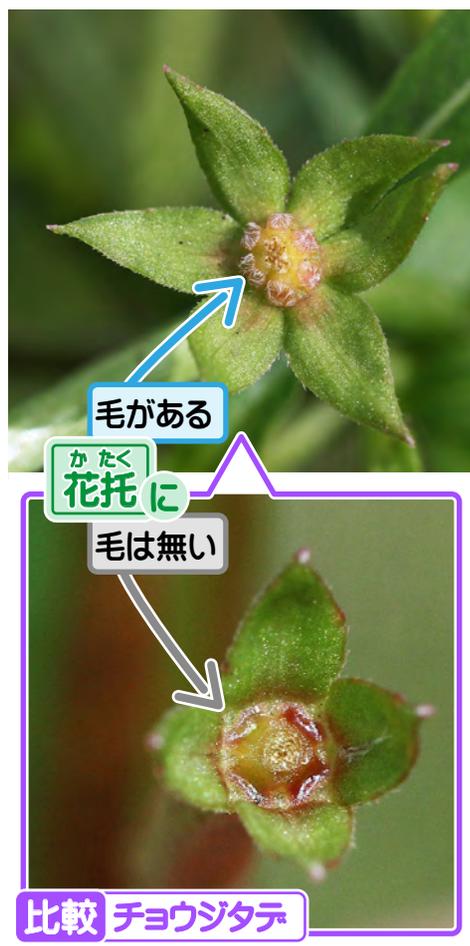


がくはチョウジタテよりも大きい

果実は棒状で先に星形のがくが残る

果実の表面に産毛がある

チョウジタテよりも赤みは弱いことが多い



毛がある

かたく花托に

毛は無い

比較 チョウジタテ



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

